

農作物技術情報 第9号 野菜

発行日 令和6年11月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 寒じめほうれんそう ハウス内の温度管理を徹底し、収量・品質を確保しましょう。
- ◆ 促成アスパラガス 適切な温度・かん水管理を徹底し、収量を確保しましょう。
- ◆ 冬春どり葉菜類 被覆資材の利用や換気等により、収量を確保しましょう。
(無加温ハウス)

1 技術対策

(1) 寒じめほうれんそう

- ・ハウスの開閉による適切な温度管理を行い、収穫できる葉長まで生育させます(写真1)。その後は、ハウスの入口やサイドビニールを開け、1週間程度5℃以下の低温に連続して遭遇させる「寒じめ」を行い、糖度の上昇を促します。
- ・寒じめ処理後は、平たく開張した、葉長15~28cmのものを収穫します。調製は下葉を取り除き、根を3mm以下に切り揃え、土等の汚れはしっかりふき取ってから、袋詰めします。



写真1 収穫直前の寒じめほうれんそう
(ハウス内の温度管理が重要)

(2) 促成アスパラガス

- ・伏せ込み後1週間~10日程度は無加温とし、徐々に地温を16~18℃まで上げます。
- ・萌芽開始後は、地温15~16℃、トンネル内気温を日中25℃以下、夜間10℃以上を目標に管理します。また、日中はできるだけ太陽光に当てて着色を促します(写真2)。
- ・かん水は伏せ込み床の乾き具合に応じて、晴天日の午前中に気温が上昇してから行います。
- ・長さ30cm程度に達した若茎から順次収穫します。曲がりや開き、細茎等は、早めに切り取り、根株の消耗を防ぎます。
- ・収穫量は伏せ込み後20~30日程度でピークを迎え、その後は徐々に減少していきます。収穫期間は1.5~1.8kgの標準的な根株で60~70日程度が目安となります。

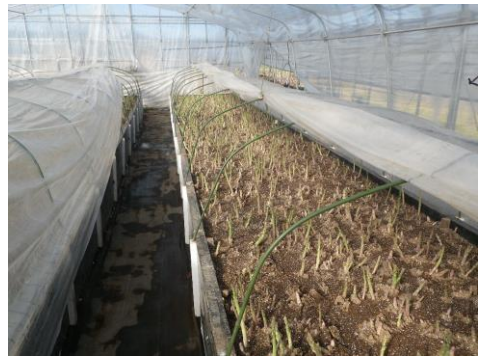


写真2 萌芽開始後の促成アスパラガス
(太陽光に当てて着色を促す)

(3) 冬春どり葉菜類(こまつな、さんとうな、チンゲンサイ等)(無加温ハウス)

- ・カーテン、トンネル、不織布等の被覆資材を利用して保温に努め、生育促進と凍害防止を図ります。ただし、被覆資材は光透過率の高いものを使用します。
- ・晴天日の日中はできるだけ換気を行って湿度を下げ、べと病や灰色かび病等の発生を防ぎます。
- ・生育中のかん水は播種前に十分行っていれば必要ありませんが、明らかに水分不足が見られる場合は、晴天日の午前中に実施します。
- ・近年、冬春どり葉菜類で農薬残留基準を超過する事例が相次いでいます。農薬登録情報・使用方法の確認、タンク・ノズル・ホースの丁寧な洗浄等、基本事項を徹底してください。

農作物技術情報の本年度定期発行は今号で終了となりますが、気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。